

## 現況推計について

## 1. 現況推計の概要

## (1) 温室効果ガス排出量の現況推計年度、対象ガス、対象部門

<p>■現況推計年度</p> <p>2008（平成 20）年度 （基準年度：1990（平成 2）年度）</p> <p>■対象ガス</p> <p>6 種類</p> <p>①二酸化炭素（CO<sub>2</sub>） ②メタン（CH<sub>4</sub>） ③一酸化二窒素（N<sub>2</sub>O） ④ハイドロフルオロカーボン類（HFCs） ⑤パーフルオロカーボン類（PFCs） ⑥六フッ化硫黄（SF<sub>6</sub>）</p> <p>■対象部門</p> <p>5 部門</p> <p>①産業部門 ⇒製造業、建設業、鉱業、農林業など ②民生家庭部門 ⇒家庭 ③民生業務部門 ⇒卸・小売業、飲食店、サービス業、病院、公務など ④運輸部門 ⇒乗用車、バス、貨物、鉄道など ⑤廃棄物部門 ⇒廃棄物の焼却、下水の処理、し尿の処理</p>
---

## (2) 温室効果ガス排出量の主な算定方法

<p>■エネルギー起源二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の算定</p> <p>エネルギー消費量×排出係数</p> <p>■非エネルギー起源二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量の算定</p> <p>廃棄物焼却量（プラスチックなど）×排出係数</p> <p>■メタン（CH<sub>4</sub>）及び一酸化二窒素（N<sub>2</sub>O）排出量の算定</p> <p>廃棄物焼却量×排出係数 水稲作付面積×排出係数 燃料消費量×排出係数 下水処理量×排出係数 し尿処理量×排出係数</p> <p>■ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）排出量の算定</p> <p>自動車登録台数×排出係数</p> <p>■パーフルオロカーボン類（PFCs）及び六フッ化硫黄（SF<sub>6</sub>）排出量の算定</p> <p>半導体製造等に伴う全国排出量÷全国電子部品等出荷額×枚方市電子部品等出荷額</p>
---

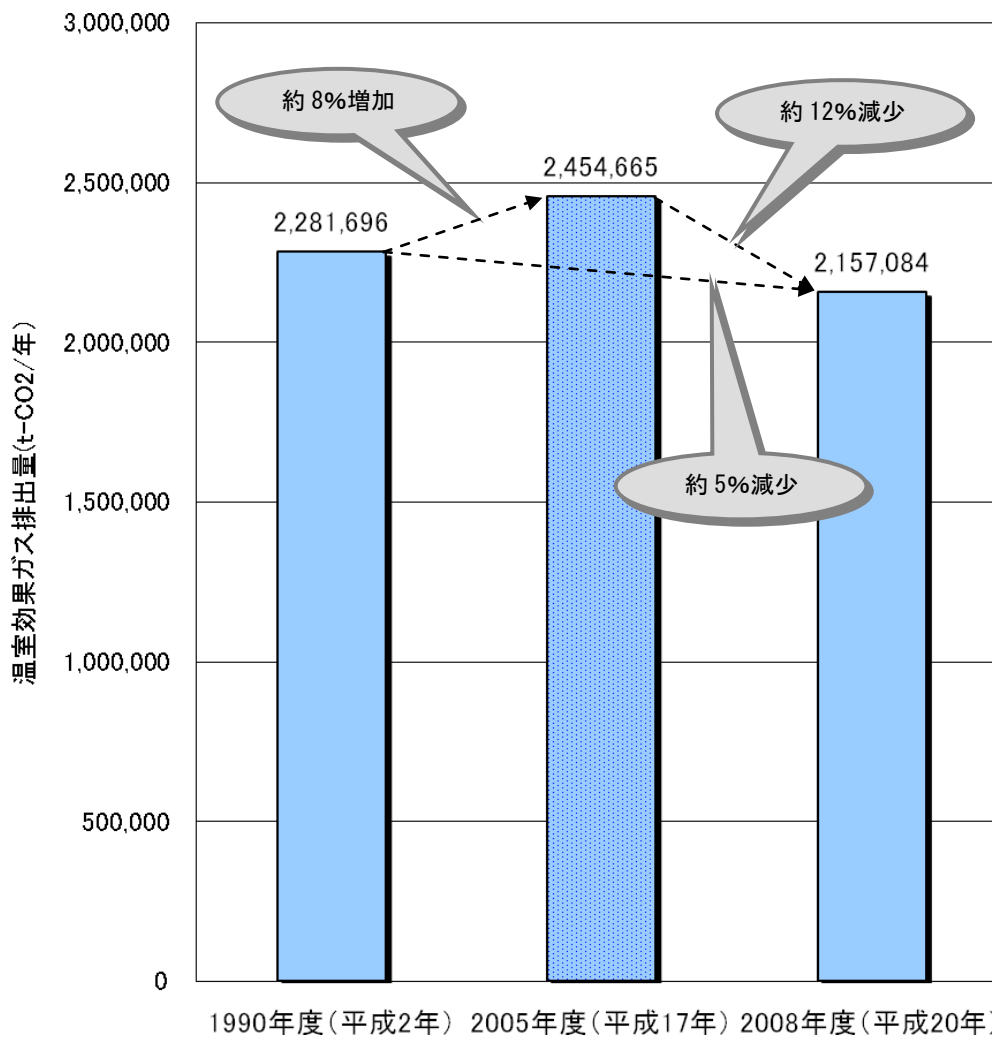
## 2. 現況推計の結果

### (1) 温室効果ガス総排出量の動向

2008（平成 20）年度の温室効果ガス総排出量は 2,157 千 t-CO<sub>2</sub> であり、1990（平成 2）年度の温室効果ガス総排出量 2,282 千 t-CO<sub>2</sub> と比較して約 5%減少しています。

2005（平成 17）年度の温室効果ガス総排出量\*は 2,455 千 t-CO<sub>2</sub> であり、1990（平成 2）年度から約 8%増加していますが、2008（平成 20）年度の温室効果ガス総排出量は 2005（平成 17）年度から約 12%減少しています。

図 温室効果ガス総排出量の動向



※上記 2005（平成 17）年度の排出量の値については、現行の地球温暖化対策地域推進計画における排出量の算定方法において求めた値（1,625 千 t-CO<sub>2</sub>）を参考値として推計しています。

## (2) 部門別温室効果ガス排出量

2008（平成 20）年度の部門別の温室効果ガス排出量は、1990（平成 2）年度と比較して、産業部門が約 29%減少していますが、民生家庭部門は約 28%、民生業務部門は約 8%、運輸部門は約 13%、廃棄物部門は約 7%それぞれ増加しています。

図 部門別温室効果ガス排出量

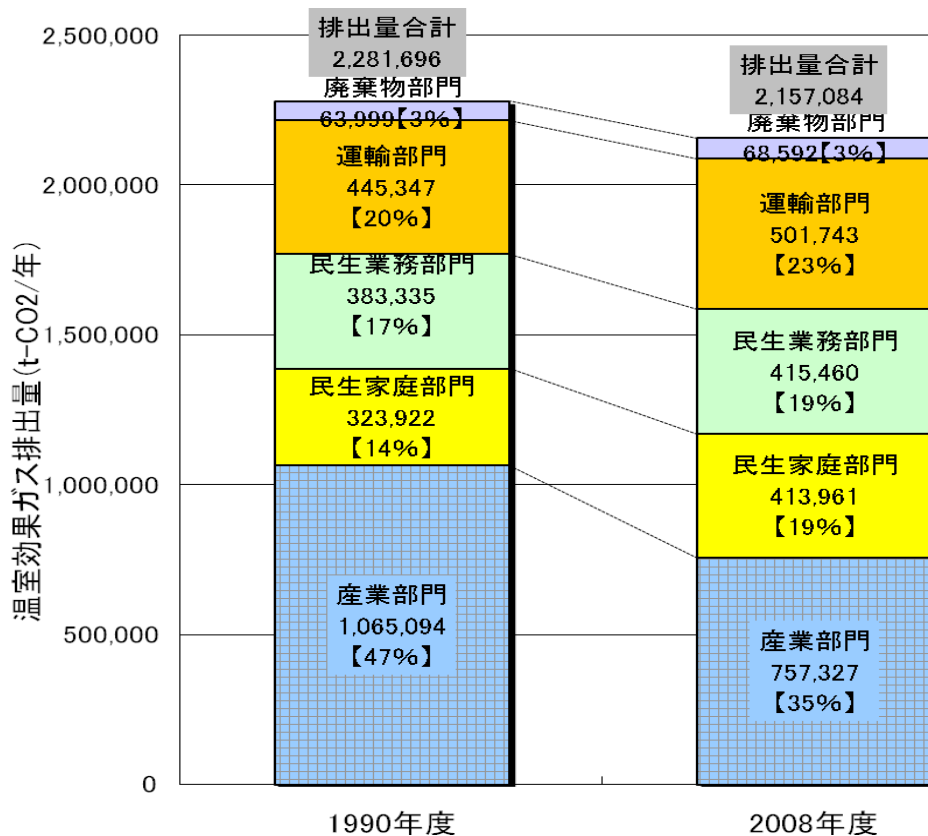
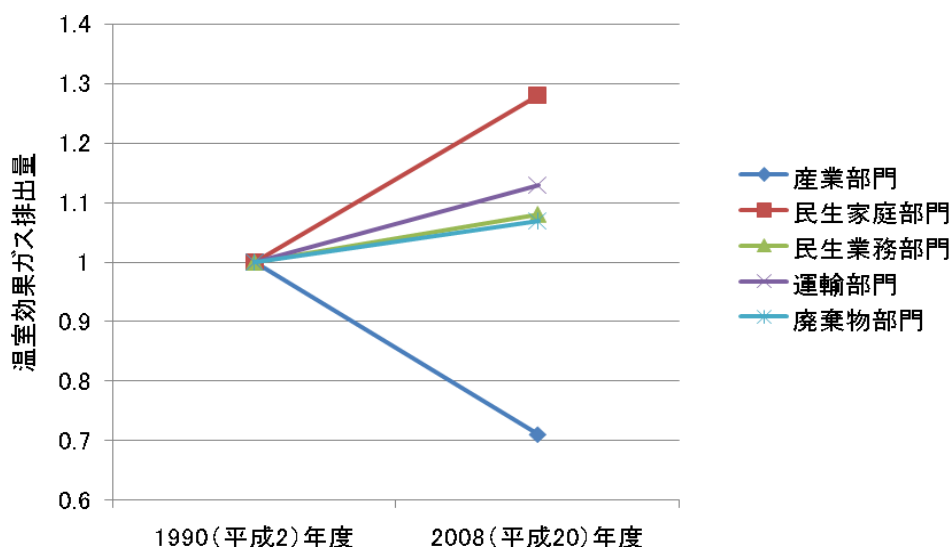


図 1990 年度からの部門別温室効果ガス排出量の動向

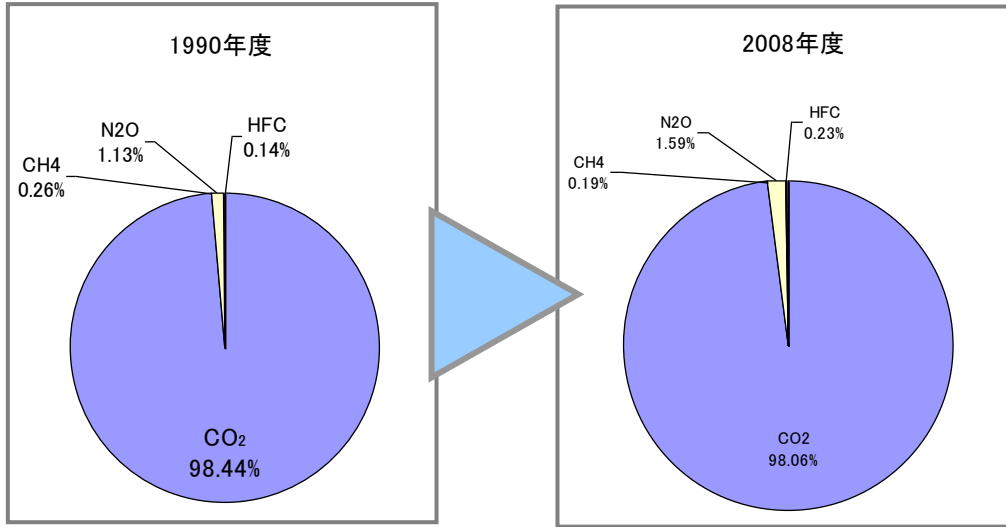


※1990（平成 2）年度の部門別排出量の値を 1 としています。

(3) ガス種別排出量割合の動向

1990 (平成 2) 年度と 2008 (平成 20) 年度とも CO<sub>2</sub> 排出量の割合が約 98%と大半を占めています。

図 ガス種別排出量割合の動向



(4) 発生源別温室効果ガスの排出量割合の動向

1990 (平成 2) 年度から電力、都市ガス、ガソリンの排出量割合が 2008 (平成 20) 年度は大きく増加しています。

図 発生源別温室効果ガスの排出量割合の動向

